

Title	アジアにおける独裁と民主主義の歴史的起源
Sub Title	The historical origins of dictatorship and democracy in Asia
Author	粕谷, 祐子(Kasuya, Yuko) 松本, 充豊(Matsumoto, Mitsutoyo) 湊, 一樹(Minato, Kazuki) 石塚, 二葉(Ishizuka, Futaba) 磯崎, 典世(Isozaki, Noriyo) 加茂, 具樹(Kamo, Tomoki) 磯崎, 敦仁(Isozaki, Atsuhito) 山田, 紀彦(Yamada, Norihiko) 山田, 裕史(Yamada, Hiroshi) 清水, 唯一朗(Shimizu, Yuichiro) 中西, 嘉宏(Nakanishi, Yoshihiro) 高木, 佑輔(Takagi, Yusuke) 近藤, 則夫(Kondo, Norio) 中村, 正志(Nakamura, Masashi) 川村, 晃一(Kawamura, Koichi) 中溝, 和弥(Nakamizo, Kazuya)
Publisher	
Publication year	2022
Jtitle	科学研究費補助金研究成果報告書 (2021.)
JaLC DOI	
Abstract	本研究課題の最終成果は、代表・分担者全員が執筆を分担した『アジアの脱植民地化と体制変動：民主制と独裁の歴史的起源』（粕谷祐子編、白水社、2022年3月出版）である。同著は、東・東南・南アジアに位置する17カ国での、第2次世界大戦後の脱植民地化を果たした直後の体制形成が、一部の国では民主主義となり、他ではさまざまな種類の独裁(政党支配、王政、寡頭制)となったのはなぜか、という問題設定のもと、植民地期の自治制度の強さと解放運動の志向の組み合わせを枠組みと設定し、制度と運動がどのような組み合わせの場合にどのような政治体制が成立するのか予測する。 The final product of this research project is the edited volume titled "Decolonization and Regime Change in Asia: Historical Origins of Democracy and Dictatorship" (edited by Yuko Kasuya, published by Hakusuisha, March 2022, 510 pages). This book consists of a theory chapter, and 15 case study chapters that cover 17 countries in East, Southeast, and South Asia. The book's core question is: what explains the variation in regime types among Asian countries at the wake of decolonization in the 1940s and 50s? Why did some countries became independent as democracies, while other became various types of dictatorships--party rule, personalist rule, monarchy, and oligarchy. The book's adopts a framework that focuses on the institutions and movements, namely, the strength of the self-government institutions and monarchy on the one hand, and the orientation of the liberation movement pm the other.
Notes	研究種目：基盤研究(B) (一般) 研究期間：2018～2020 課題番号：18H00816 研究分野：比較政治学
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KAKEN_18H00816seika

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 4 年 6 月 8 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2018～2020

課題番号：18H00816

研究課題名(和文) アジアにおける独裁と民主主義の歴史的起源

研究課題名(英文) The Historical Origins of Dictatorship and Democracy in Asia

研究代表者

粕谷 祐子 (Kasuya, Yuko)

慶應義塾大学・法学部(三田)・教授

研究者番号：50383972

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 13,380,000円

研究成果の概要(和文)：本研究課題の最終成果は、代表・分担者全員が執筆を分担した『アジアの脱植民地化と体制変動：民主制と独裁の歴史的起源』(粕谷祐子編、白水社、2022年3月出版)である。同著は、東・東南・南アジアに位置する17カ国での、第2次世界大戦後の脱植民地化を果たした直後の体制形成が、一部の国では民主主義となり、他ではさまざまな種類の独裁(政党支配、王政、寡頭制)となったのはなぜか、という問題設定のもと、植民地期の自治制度の強さと解放運動の志向の組み合わせを枠組みと設定し、制度と運動がどのような組み合わせの場合にどのような政治体制が成立するのか予測する。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究課題の成果がもつ学術的意義としては、アジア(日本)発の政治体制変動論の提示にある。これまでの体制変動論は、ヨーロッパを主な分析対象地域として、民主主義への単線的な変動を説明することに重点が置かれてきたが、本研究の成果においては、アジア諸国を対象に、脱植民地期というこれまでのヨーロッパ中心主義の分析では見えてこなかった時期・事象に焦点をあて、さらに、この時期の制度と運動に着目した共通の枠組みでアジア17カ国を分析している。このような試みは世界的に見ても初めてのものと言える。また、本研究課題の成果を編集本として日本語で出版したことで、一般読者や大学生にも読んでもらえるものとなっている。

研究成果の概要(英文)：The final product of this research project is the edited volume titled "Decolonization and Regime Change in Asia: Historical Origins of Democracy and Dictatorship" (edited by Yuko Kasuya, published by Hakuuisha, March 2022, 510 pages). This book consists of a theory chapter, and 15 case study chapters that cover 17 countries in East, Southeast, and South Asia. The book's core question is: what explains the variation in regime types among Asian countries at the wake of decolonization in the 1940s and 50s? Why did some countries become independent as democracies, while others became various types of dictatorships--party rule, personalist rule, monarchy, and oligarchy. The book adopts a framework that focuses on the institutions and movements, namely, the strength of the self-government institutions and monarchy on the one hand, and the orientation of the liberation movement on the other.

研究分野：比較政治学

キーワード：アジア 脱植民地化 体制変動 民主化

1. 研究開始当初の背景

本研究を企図した動機となっているのは、これまでの政治体制変動の理論がヨーロッパ中心の偏りを持っており、アジア諸国の経験を説明するには不適切であるという問題である。以下の図にあるように、アジアにおいては、アフリカと同様、民主主義だけでなく、独裁の様々なタイプ（王政、軍政、政党支配、寡頭支配など）が独立直後から最近に至るまで継続している（図は、Geddes, B., J. Wright, and E. Frantz, (2014) “Autocratic Breakdown and Regime Transitions: A New Data Set,” *Perspectives on Politics*, 12:2: 313-331より筆者作成）。これに対し、体制変動に関する理論は、主に、独裁から民主主義への移行を説明しようとしており、独立直後から成立した異なるタイプの独裁がなぜ・どのように成立するのかに関してはほとんど分析がない。そのことは、体制変動論の多くが、ヨーロッパの経験をもとに構築されており、アジアとアフリカを比較分析の視野に入れていないことをも反映している。

このような問題意識から、本研究では、アジアにおいて、なぜ植民地からの独立の際に異なるタイプの体制が成立するのか、を説明することにある。

2. 研究の目的

本研究は、以下の表にある、東・東南・南アジア諸国が脱植民地化を果たした後に成立した政治体制の類型が、なぜ・どのようにそのようなものになったのかを説明することを目的としている。ここでの「植民地化」は、外国の勢力がある社会集団を統治秩序の下位に強制的に組み込むこと、と定義しているため、通常は植民地化されることがないとみな

される日本やタイも、それぞれGHQと日本軍に占領されていたことから本研究での分析対象となっている。分析枠組みとしては、脱植民地化前の10年程度の期間における自治制度と王室という2種類の制度と、解放運動の志向という3つの条件の組み合わせをもとに、7つのタイプの体制帰結を予測している（詳細については、4の「研究成果」にある業績図書の内容を参照されたい）。

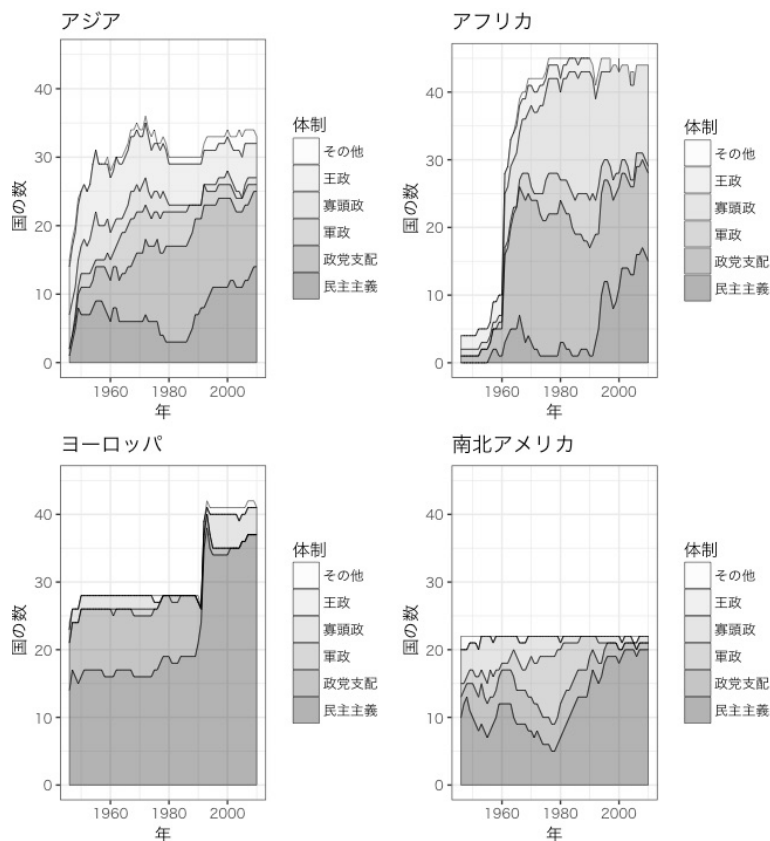


図1 体制類型の推移

	国	脱植民地 化地年	主な宗主国・ 占領機関	脱植民地化後の体制類型
東 ア ジ ア	韓国	1948	日本/米軍	個人支配 (1952-1960)
	北朝鮮	1948	日本/ソ連軍	政党・個人支配 (1948-現在)
	台湾	1945	日本	政党支配(1949-1996)
	中国	1945	日本	政党支配 (1949-現在)
	日本	1952	連合軍(主に米軍)	民主制 (1952-現在)
	インドネシア	1949	オランダ/日本	民主制 (1949-1959)
	カンボジア	1954	フランス/日本	王政(1954-1970)
東 南 ア ジ ア	北ベトナム ¹⁾	1954	フランス/日本	政党支配(1954-現在)
	タイ	1945	日本	寡頭支配(1948-1957)
	フィリピン	1946	アメリカ/日本	民主制 1946-1972)
	マレーシア	1957	イギリス/日本	民主制 (1957-1969)
	南ベトナム ²⁾	1954	フランス/日本	個人支配(1954-1963)
	ミャンマー	1948	イギリス/日本	民主制 (1948-1962)
	ラオス	1953	フランス/日本	民主制 (1953-1960)
南 ア ジ ア	インド	1947	イギリス	民主制 (1947-現在)
	スリランカ	1947	イギリス	民主制 (1947-1983)
	パキスタン	1947	イギリス	寡頭支配/軍政(1947-1972)

表1 分析対象のアジア諸国

出所：筆者作成。

3. 研究の方法

本研究は、定性的な手法を用いた比較政治史研究である。研究代表者が主に帰納的アプローチで枠組み作成を担当し、分担者15名がそれぞれの担当の国の歴史を枠組みの提示する論点に関して分析する体制をとっている。枠組みでは、上記3条件の強弱により8つのパターンの体制帰結が予測できるが、それぞれの事例がどのパターンに属するのかを示した上で、実際に形成された脱植民地化後の体制類型が予測の通りになったかどうか、その場合はどのような経緯を経てそうなったのかを分析する。また、予測に沿った帰結にならなかった場合には、なぜそうならなかったのかを検討している。予測に沿った帰結にならなかったのは、インドネシア、韓国、タイ、台湾、パキスタンで、それ以外は予測どおりの帰結であった。

4. 研究成果

本研究の主な成果は、『アジアの脱植民地化と体制変動-民主制と独裁の歴史的起源』（粕谷祐子編、白水社、2022年、510ページ）として出版された。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計15件（うち査読付論文 5件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 8件）

1. 著者名 清水唯一朗	4. 巻 90
2. 論文標題 「国家、政党、国民 重心なきトライアングルの政治史」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アステイオン	6. 最初と最後の頁 14-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清水唯一朗	4. 巻 48-2
2. 論文標題 「日本研究のマルチ・ヒストリオグラフィ」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 問題と研究	6. 最初と最後の頁 1-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 松本充豊	4. 巻 940
2. 論文標題 総統選挙と台湾（1） 蒋介石総統選出の事例を中心に	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 交流	6. 最初と最後の頁 5-15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 磯崎敦仁	4. 巻 141
2. 論文標題 北朝鮮における世襲による権力継承	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 教養論叢	6. 最初と最後の頁 1-31
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 磯崎敦仁	4. 巻 90
2. 論文標題 金正恩政権における脱「先軍政治」化	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 紀要国際情勢	6. 最初と最後の頁 57-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 ISOZAKI Atsuhito	4. 巻 9
2. 論文標題 Characteristics of Kim Jong-un's Leadership: Analyzing the Tone of Official North Korean Media	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 Journal of Contemporary East Asia Studies	6. 最初と最後の頁 --
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Kasuya, Yuko	4. 巻 5-1
2. 論文標題 The 2019 Midterm Elections in the Philippines: Populist Mobilization in the Age of Duterte	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Asian Journal of Comparative Politics	6. 最初と最後の頁 69-81
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 Isozaki Noriyo	4. 巻 -
2. 論文標題 Education, Development, and Politics in South Korea	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Tsunekawa K., Todo Y. (eds) Emerging States at Crossroads. Emerging-Economy State and International Policy Studies.	6. 最初と最後の頁 209-229
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1007/978-981-13-2859-6_10	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 山田裕史	4. 巻 65-1
2. 論文標題 開発下のカンボジアにおける人民党支配 国家と社会に浸透する党	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アジア研究	6. 最初と最後の頁 79-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11479/asianstudies.65.1_79	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 川村晃一	4. 巻 13-2
2. 論文標題 インドネシアにおける民主主義の安定と憲法裁判所	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 社会イノベーション研究	6. 最初と最後の頁 99-120
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 清水唯一朗	4. 巻 337
2. 論文標題 代表性と専門性の150年	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 Journalism	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清水唯一朗	4. 巻 1619
2. 論文標題 『本格的』政党内閣とは何か 原敬内閣100年に政党政治を考える	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 中央公論	6. 最初と最後の頁 89-98
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清水唯一朗	4. 巻 1135
2. 論文標題 日本における代表制 その歴史的展開と課題	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 法律時報	6. 最初と最後の頁 102-107
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 清水唯一朗	4. 巻 2018
2. 論文標題 明治維新 人才登用的革命	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 南開日本研究	6. 最初と最後の頁 58-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 清水唯一朗	4. 巻 91
2. 論文標題 政治史研究とオーラル・ヒストリー 概論と実践	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 アーキビスト	6. 最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計32件(うち招待講演 22件/うち国際学会 20件)

1. 発表者名 清水唯一朗
2. 発表標題 選挙学会と政治史研究
3. 学会等名 日本選挙学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 清水唯一朗
2. 発表標題 明治維新150年與日本の政治
3. 学会等名 東亞人文社會科學研究的新地平線（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 清水唯一朗
2. 発表標題 近代日本のデモクラシーと開発政治
3. 学会等名 第4回東アジア日本研究者協議会（招待講演）（國際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中溝和弥
2. 発表標題 2019 General Election and the Formation of the BJP system in India
3. 学会等名 2019年度アジア政経学会秋季大会（國際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中溝和弥
2. 発表標題 Floods and Politics: The Case of 2008 Floods in Bihar, India
3. 学会等名 気候変動と水資源をめぐる国際政治のネクサス研究会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中溝和弥
2. 発表標題 Concluding discussion
3. 学会等名 Globalization of Majoritarian Democracy (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中溝和弥
2. 発表標題 BJPシステムの成立とマイノリティの将来
3. 学会等名 2019年インド第17次連邦下院選挙 研究会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中溝和弥
2. 発表標題 民とは誰か？ーインドにおける宗教マイノリティの抑圧
3. 学会等名 日本政治学会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中溝和弥
2. 発表標題 Populist Appeals and Party Support in Bihar
3. 学会等名 American Political Science Association Annual Meeting (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中溝和弥
2. 発表標題 New Strategy for Identity Formation: Analysis of 2019 Lok Sabha Election in India
3. 学会等名 Globalization of Majoritarian Democracy (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 中溝和弥
2. 発表標題 The Crisis of Indian Democracy: Strong State and Vigilante Justice
3. 学会等名 The 11th International Convention of Asia Scholars (ICAS) (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 磯崎典世
2. 発表標題 人的資本形成をめぐる政治経済学 - 韓国はなぜ公的負担が少ない教育国になったのか
3. 学会等名 日本政治学会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 磯崎典世
2. 発表標題 日韓の対立と協働、学術ネットワークの構築
3. 学会等名 日本学術会議 (シンポジウム報告) (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 磯崎典世
2. 発表標題 大韓民国の建国：脱植民地化と民主主義の脆弱性
3. 学会等名 学習院大学東洋文化研究所（プロジェクト研究会報告）（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 磯崎敦仁
2. 発表標題 北朝鮮における権力継承
3. 学会等名 日本比較政治学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 ISOZAKI Atsuhito
2. 発表標題 How have relations between Japan and North Korea developed since the Second World War?
3. 学会等名 ISKS International Conference of Korean Studies（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kasuya, Yuko
2. 発表標題 Visualizing the state of democracy in Asia through V-Dem
3. 学会等名 the International Symposium on The State of Democracy in Asia（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kasuya, Yuko
2. 発表標題 The shift from majoritarian to consensual democracy in Asia
3. 学会等名 the International Symposium on The State of Democracy in Asia (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kasuya, Yuko
2. 発表標題 Better Regime Cutoffs for Continuous Democracy Measure
3. 学会等名 V-Dem Institute Lunch Seminar Series (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Kasuya, Yuko
2. 発表標題 Regime Divergence at the Time of Decolonization in Asia: A Framework for Analyses
3. 学会等名 International Studies Association (Singapore) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Yuko Kasuya (with Elena Korshenko and Jaemin Shim)
2. 発表標題 Conditions of Successful Communist Movements in Asia: A Qualitative Comparative Analysis
3. 学会等名 European Consortium for Political Research (ECPR) General Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yuko Kasuya
2. 発表標題 Regime Divergence at the Time of Decolonization in Asia: A Framework for Analyses
3. 学会等名 European Consortium for Political Research (ECPR) General Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yuko Kasuya (with Masaaki Higashijima)
2. 発表標題 The Historical Origins of Long-Surviving Military Regimes: the Mode of Decolonization, Legitimacy Advantage, and Path Dependency
3. 学会等名 European Consortium for Political Research (ECPR) General Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yuko Kasuya (with Elena Korshenko and Jaemin Shim)
2. 発表標題 Conditions of Successful Communist Movements in Asia: A Qualitative Comparative Analysis
3. 学会等名 6th Asian Political Methodology Meeting (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 磯崎典世
2. 発表標題 21世紀の日韓関係：共同宣言後の変化と課題
3. 学会等名 日本政治学会・韓国政治学会・駐大阪韓国総領事館主催 国際シンポジウム「日韓共同宣言20周年記念シンポジウム 急変する東アジア情勢と新しい日韓関係」(招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yuichiro Shimizu
2. 発表標題 Not Restoration, But Revolution: 150 Yars Changes in Youth
3. 学会等名 JAPAN IN THE GLOBAL 21ST CENTURY (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Yuichiro Shimizu
2. 発表標題 Bureaucrats and Politicians in Japan: Conflict and Collaboration from 1868 to 2018
3. 学会等名 The World History Seminar Series by the MIT History Faculty (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 清水唯一朗
2. 発表標題 政治史・政策史研究におけるオーラル・ヒストリー
3. 学会等名 日本選挙学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 清水唯一朗
2. 発表標題 人材登用革命としての明治維新
3. 学会等名 「明治維新と近代世界」国際シンポジウム (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 清水唯一朗
2. 発表標題 「初の本格的政党内閣」の歴史的制度分析
3. 学会等名 日本政治学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 清水唯一朗(中島 有希大, 鎌原 勇太, 古谷 知之)
2. 発表標題 旧藩の境界と選挙区 その経路依存性と変動に関する分析
3. 学会等名 地理情報システム学会
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 清水唯一朗
2. 発表標題 明治維新と人材育成 育成、登用、昇進
3. 学会等名 国際シンポジウム「明治維新とベトナムのドイモイ」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計14件

1. 著者名 清水唯一朗、瀧井一博、村井良太	4. 発行年 2020年
2. 出版社 有斐閣	5. 総ページ数 294
3. 書名 日本政治史	

1. 著者名 清水唯一朗	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Bloomsbury	5. 総ページ数 269
3. 書名 The Origin of the Modern Japanese Bureaucracy	

1. 著者名 磯崎敦仁	4. 発行年 2019年
2. 出版社 毎日新聞出版	5. 総ページ数 240
3. 書名 北朝鮮と観光	

1. 著者名 川村晃一, 高木佑輔, 粕谷祐子(川中豪・川村晃一編)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 376
3. 書名 教養の東南アジア現代史	

1. 著者名 川村晃一 (宮脇昇編)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 志學社	5. 総ページ数 322
3. 書名 現代国際関係学叢書第5巻 国際関係の争点	

1. 著者名 Kawamura, Koichi (Kevin YL Tan, Ngoc Son Bui eds.)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Hart Publishing	5. 総ページ数 372
3. 書名 Constitutional Foundings in Southeast Asia	

1. 著者名 近藤則夫, 川村晃一(他)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 アジア経済研究所	5. 総ページ数 352
3. 書名 アジア動向年報	

1. 著者名 Kevin YL Tan, Ngoc Son Bui (Koichi Kawamura)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 Hart Publishing	5. 総ページ数 352
3. 書名 Constitutional Foundings in Southeast Asia	

1. 著者名 筒井清忠編(清水唯一朗)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 筑摩書房	5. 総ページ数 400
3. 書名 明治史講義【人物編】	

1. 著者名 Gema Nayeil Morales Martinez, Gerardo Romero Altamirano ed.	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Tirant Humanidades (メキシコ)	5. 総ページ数 344
3. 書名 Educacion Civica	

1. 著者名 中公新書編集部編(清水唯一朗)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 中央公論新社	5. 総ページ数 288
3. 書名 日本史の論点	

1. 著者名 菜市场政治学共同編集群編(清水唯一朗)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 左岸出版(台湾)	5. 総ページ数 432
3. 書名 Who Governs?	

1. 著者名 御厨貴編(清水唯一朗)	4. 発行年 2019年
2. 出版社 岩波書店	5. 総ページ数 328
3. 書名 オーラル・ヒストリーに何ができるか	

1. 著者名 粕谷 祐子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 白水社	5. 総ページ数 510
3. 書名 アジアの脱植民地化と体制変動	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	松本 充豊 (Matsumoto Mitsutoyo) (00335415)	京都女子大学・現代社会学部・教授 (34305)	
研究分担者	湊 一樹 (Minato Kazuki) (00450552)	独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所・地域研究センター南アジア研究グループ・研究員 (82512)	
研究分担者	石塚 二葉 (Ishizuka Futaba) (00466070)	独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所・新領域研究センター ガバナンス研究グループ・研究グループ長代理 (82512)	
研究分担者	磯崎 典世 (Isozaki Noriyo) (30272470)	学習院大学・法学部・教授 (32606)	
研究分担者	加茂 具樹 (Kamo Tomoki) (30365499)	慶應義塾大学・総合政策学部(藤沢)・教授 (32612)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	磯崎 敦仁 (Isozaki Atsuhito) (40453534)	慶應義塾大学・法学部（日吉）・准教授 (32612)	
研究分担者	山田 紀彦 (Yamada Norihiko) (50450523)	独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所・地域研究センター動向分析研究グループ・研究グループ長 (82512)	
研究分担者	山田 裕史 (Yamada Hiroshi) (60535798)	新潟国際情報大学・国際学部・准教授 (33107)	
研究分担者	清水 唯一郎 (Shimizu Yuichiro) (70361673)	慶應義塾大学・総合政策学部（藤沢）・教授 (32612)	
研究分担者	中西 嘉宏 (Nakanishi Yoshihiro) (80452366)	京都大学・東南アジア地域研究研究所・准教授 (14301)	
研究分担者	高木 佑輔 (Takagi Yusuke) (80741462)	政策研究大学院大学・政策研究科・准教授 (12703)	
研究分担者	近藤 則夫 (Kondo Norio) (90450452)	独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所・地域研究センター南アジア研究グループ・主任研究員 (82512)	
研究分担者	中村 正志 (Nakamura Masashi) (90450494)	独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所・地域研究センター・次長 (82512)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	川村 晃一 (Kawamura Koichi) (90450501)	独立行政法人日本貿易振興機構アジア経済研究所・地域研究センター東南アジアI研究グループ・研究グループ長 (82512)	
研究 分 担 者	中溝 和弥 (Nakamizo Kazuya) (90596793)	京都大学・アジア・アフリカ地域研究研究科・教授 (14301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計2件

国際研究集会 The State of Democracy in Asia	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 V-Dem データベースによる民主主義の多様性研究セミナー	開催年 2018年～2018年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------